

# 令和7年第7回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和7年7月18日（金） 午後1時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者 齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後3時00分
- 6 令和7年第6回教育委員会定例会及び第1回教育委員会臨時会会議録の承認について  
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。  
一盃森委員、丹羽委員 署名。
- 7 教育長報告  
(1) 一般事務報告  
報告第6号 令和7年第3回大河原町議会定例会（6月会議）の結果について  
小野寺専門監、生涯学習課長より説明。  
一盃森委員 | 昨日用事があつて角田方面に行くため、大河原南小学校の前を通つた。南小の法面には大きな松の木が生えているが、あれは植えたのではなく自然木と思われる。かなり大きくなっており、歩道にはみ出しているほか、落ち葉や枯れ草なども歩道に堆積していて気になった。法面自体は年に何回が草刈りをしているのを見ているが、あの木自体の少し枝を落とすなり、下の部分の木を切ってもいいのではないかと。ぜひご検討いただきたい。  
鈴木教育長 | 樹木の剪定についてですが、南小の外周コースに植えた樹木が大きくなっており、強風などが吹くと危険なため、専門の業者等に依頼をして伐採を検討している。なお、他の学校の樹木も伸びており、全部を合わせるとかなりの本数になることから、施設管理係と検討しながら今後予算化し、伐採を進めていきたい。  
他に何かございますでしょうか。  
片倉委員 | 熱中症対策について、前にインターネットか何かの記事で読んだことがある

が、小学校に冷凍庫を設置している学校が少しずつ増えているとのこと。子供達は朝にネッククーラーをして登校しているが、帰りは一番気温が高い時間帯に下校することになる。今年は本当に暑くなるのが早くて、5月の運動会の頃にも気温が30度を超えていた。特に低学年の1年生とか2年生だとまだ行って帰ってくるだけでもだいぶ時間がかかるので、具合が悪くなる心配がある。学校に冷凍庫があると、ネッククーラーや保冷剤を預かってもらえる。例えばクラスでボックスとかに集めて冷凍庫に入れておき、帰りの会のときに持って帰ってきて、自分で身に付けて帰るようにしたら、だいぶ帰りの下校時間などが快適になるのではないかとこの記事を読んで感じた。いかがでしょうか？

鈴木教育長  
一盃森委員

今後の主要対策の一つと考えている。

民間でも、クーリングシェルターを設置している所も増えている。

銀行やコンビニなどに入ったりのが良いのではないかと思います。

もっとこのような取り組みをアナウンスして、利用してもらえるように広めていくところから始めれば良いのではないかと。

#### 報告第7号 工事請負契約の締結

(大河原町立大河原南小学校1号校舎外壁・屋上防水ほか改修工事)について  
小野寺専門監より説明。

#### 報告第8号 工事請負契約の締結

(令和7年度大河原町立小中学校特別支援教育等空調設備設置工事)について  
小野寺専門監より説明。

### (2) 専決事務報告

#### 報告第4号 専決処分の報告について

(令和7年度大河原町一般会計補正予算(第2号))  
小野寺専門監、生涯学習課長より説明。

## 8 議 事

### 議案第31号 令和8年度使用教科用図書の採択調整案について

小野寺専門監より説明。

鈴木教育長

ただいまの説明に対しまして、何かご質問等ありますでしょうか？

教科書用図書については前回議論いただき調整したものです。特になければ可決してよろしいでしょうか。

(委員全員に諮って) 可決する。

## 議案第 32 号 大河原町特別支援連携協議会委員の委嘱について

小野寺専門監より説明。

鈴木教育長 ただいまの説明について、何かご質問等ありますでしょうか。  
特になければ可決してよろしいでしょうか。  
(委員全員に諮って) 可決する。

## 9 その他

### (1) 教育長報告

#### 1 ウェルビーイング

##### (1) 『世界の教育はどこへ向かうのか』(白井俊)

白井氏は文部科学省の官僚で、現在は内閣府に出向中。日本の教育の中核牽引役と言っても過言ではない方である。この白井氏の著書は教育関係者は必読の書である。ウェルビーイング、つまり主観的幸福感を持つためには、三つの要素「友達関係」「自己肯定感」「教師のサポート」が大切だという。全国学力テストでトップクラスの成績を収めた子供達はウェルビーイングの質問でも高い結果であった。

つまり、学力と幸福感については非常に相関があるといえるのではないか。学校で学んでいて、わからないというのはやはりつまらないし、喜びにも繋がらない。そういう中で、学校の子供たちの人間関係とか、子供と先生の関わりとカリスペクトし合うような関係がきちんと築かれているような学級、あるいは学校、そういう風土であれば、やはり子供たちも幸せというようなことを感じてくれるのではないか。

この白井氏が書かれた「世界の教育はどこへ向かうのか」の中に、ウェルビーイングについて記された箇所があり今回紹介するもの。この図書は尾木直樹氏も推奨しており、非常に読み応えがあり示唆に富んだ内容の本である。

#### 2 特別活動

##### (1) 児童自らのアイデア実現(読売新聞)

東京都の特別活動の実践の例を掲載した記事。子供たちが考えたアイデアを実現することは、やはり自己肯定感の高まりに繋がっていく。例えば校内放送で占いや先生のインタビューを流すとか、キャラクターを作っていく等。また、日直の当番の児童がつける「日直バッチ」を導入した小学校では、周囲から「日直がんばってね」などと声をかけやすくなり、クラスの明るい雰囲気づくりに役立っているほか、学年を超えてのコミュニケーションが広がったという。

##### (2) スポーツ集会の計画案をつくる(学級通信「道草」)

鈴木教育長自身が書いた学級通信の紹介。1987年なので、まだ土曜授業があった時代で、土曜日にスポーツ集会の計画案を立てさせたもの。皆が楽しめるスポーツ集会ということで子供たちに作らせたところ、計画案は20枚近くになった。その中から良いアイ

デアや、皆でしたいことなど希望をまとめて、計画を練っていった。やはりこういう時間が非常に大事であるもの。

大河原中学校でも縦割りの授業を取り入れたりしているほか、大河原南小学校では、もがり祭りについて、もともと子供の考えた楽しい集会、遊び作りから入ってるということで、このような子供たち自らのアイディア実現の場を作ってやる必要があるのだということで紹介したもの。

### **3 詩「自分の感受性くらい」(茨木のり子)**

#### **(1) 育てた感受性 日々「水やり」(小泉今日子)**

茨木のり子氏の詩で読売新聞に載ったもの。「私を作った書物たち」という記事の中で、小泉今日子さんが取り上げた詩集である。茨木のり子氏の「自分の感受性くらい」という詩を読むと、作者は自分自身に言っているのか、あるいは読み手に言っているのか、両方取れるもので非常に良い詩であると感じる。

#### **(2) 一人ひとりが自分自身と向き合って読む(石井順治)**

この茨木のり子氏の詩を扱った実践が、石井潤治先生の書かれた「子どもの読みがつくる文学の授業」という本に載っていたもの。15 ページにその「自分の感受性くらい」の詩があり、その最後のほうに「わずかに光る尊厳の放棄」とある。これは尊重とか尊厳という白井先生のウェルビーイングと繋がるような言葉である。

この詩を中学 3 年生の担任の先生が授業で行い、誰に向かって書いているのかというのを取り上げたもの。その子供たちが書いた感想文を取り上げて、石井先生が本当に細かく分析し、評価してくださっている。非常に素晴らしい文章が続いているものである。

### **4 子どもに委ねる**

#### **(1) 子どもに委ねる算数授業(盛山隆雄)**

子供に委ねるという、「委ねる」という言葉を最近聞くようになってきた。ただ、筑波大附属小学校の先生である盛山隆雄先生は、やはりただ委ねても駄目で教師が誘導して行って作り上げていき、その後に突き放すというか自由にさせる、委ねるということが大事だとおっしゃっているもの。

#### **(2) 「基準」「比例」の見方を無自覚でも必然的に引き出す(岡本真裕)**

奈須正裕先生の「転移する学力」から、山口大学附属小学校の岡村先生が執筆した算数の実践記録であるが、やはりここでも岡本先生はやはり見方考え方が重要だと言っている。何をその見方考え方にするかということで、そのまま「基準」とか「比例」とか、そういうものが大事になってくる。

### **5 『東洋経済 education×ICT』から**

#### **(1) 小学校教員が成果を実感する iPad の活用法**

東洋経済という冊子に載っていた記事。一つ目は、iPadの活用法についてで、大河原町の子供たちもタブレット端末使っているが使わせると子供たちが非常に伸びていく。タイピングでもかなり文字数が多く打てるようになる。金ヶ瀬小学校の子供たちを見たときも、タイピングが非常に上手で早くなっていた。

## **(2) 「学年担任制×教科担任制×40分授業午前5時間制」導入した公立小の1年半後**

学年担任制や教科担任制について、教科担任制はどんどん取り入れていいと思う。つまり新たな人員が配置になって、その担任の先生が空き時間が持てる。ただ交換授業についてはどうなのかと感じる。子供1人1人に目を向けられるのかどうかという不安もある。導入している学校も近隣にあるが、今後の様子を見ていきたいと思う。

## **6 教育諸課題**

### **(1) 「みんなが輝くために5」(梅田真理)**

宮城学院女子大学の梅田真理先生が書かれた、「みんなが輝くために」の一部を載せたもの。通級学級の話であり、仲間と違うことをすることの必要性とか、あるいは通級に行ったらこんなに変わってきたということが実感できるような指導が必要である。

### **(2) 「探求」を言葉だけにしないために(浅田和伸)**

### **(3) 学習評価の改善(田村学)**

### **(4) 「ホワイトボード」をどう使うか**

ホワイトボードの使い方について。ホワイトボードはメモ的に使うのが大事であり、各班でまとめて一番いい意見を書くというのは、駄目な使い方であるというもの。

### **(5) 令和7年度第1回大河原町標準学力調査結果**

## **7 その他**

### **(1) OH!かわら楽校②「焼きそば&プチパフェに挑戦」**

中央公民館で焼きそばとプチパフェ作りに取り組んだもの。子供たちは非常に喜んで一生懸命に取り組んでいた。やはり不登校気味の子供たちであるため、人との関わりや社会性、あるいは物を作るとかが多分苦手だと思うが、このような経験を通して上手くなっていくんだと感じた。

### **(2) 大河原南小 仙台大学との連携事業ダンス表現**

### **(3) 金ヶ瀬小 学校運営協議会①**

### **(4) 金ヶ瀬中 学校運営協議会①**

### **(5) 大河原南小 全学級道徳授業の日**

### **(6) 部活動地域移行推進協議会①**

### **(7) 地域学校協働本部ネットワーク会議①**

## (8) 小中学校安全の集い

### (9) 大中金中合同バレーボール教室 (リガーレ仙台 4 選手)

大河原中・金ヶ瀬中のバレーボール合同練習会。リガーレ仙台の選手 4 名の方が来てくださり、指導していただいたもの。非常に充実した内容であり、テレビ等でも紹介された。8 月中に第 2 回目を行う予定となっている。

## (2) 各課長報告

### 小野寺専門監、生涯学習課長

令和 7 年度行事予定について説明。

丹羽委員 教育長報告のウェルビーイングの話題の中で、ユニセフの報告書が公表された際に、日本の子供たちの「幸福度」が「世界ワースト 2 位」と報じられたとあったが、この後にアメリカでは年間 1, 375 件ものピストルの事件や事故が発生しているとある。ただアメリカの方がずっと幸福度が高い。だから、何をもって幸福度とするか、そしていじめについては、エジプトが 70%もあるが、日本は 18%で低い。それでも幸福度は低い。つまり、自分は偉くないのだというそういう思いがあり、日本人は教養が高いのだと思う。だから幸福度が低く、自分でこう見てしまう。自分たちよりも大変な生活をしている方々が世界中にいるということを知っている。日本人は幸福度が低いと受け止めるということは、日本人は本当に心が豊かであり、民度が高い、教養が備わっているのだと私はプラスに受け止めたもの。

林委員 2 点お話ししたい。まずは白井俊先生の書かれた内容の一つ一つについて、本当に納得する、腑に落ちるといふか深いところで感動する思いで読ませていただいた。その中に日本の生徒の内発的な意欲が低いということがあり、その方策として、なぜその教科を学ぶのかという問いを子供たちに示していくと良いということで、ある学校の事例が紹介されていた。私も現場で教員をしている時に、この問いが結構子供たちの中から出てくることがあった。先生どうしてこんな算数計算をしないといけないのか、そういうふうな問いが出たときに、答えなくて、子供たちになぜだと思ふ？と問いかける。その一言で、子供たちはなんでだろうと考えて、子供たちなりにその教科の良さにたどり着く。そしてその子供たちなりに答えを説明しようとして考える。そういうことを経ると、その教科に臨む気持ちがぐっと上がる。その内発的な力が上がっていくというような、その日常の何気ない問いに、子供たちに考えさせて、先生も一緒に考えるから教えてみたいなそのやり取り、心が通うやり取りがなされていくと良いだろうと思ったもの。もう一点は、やはり茨木のり子氏のこの詩について、実際に中学校 2 年生の

教科書に「私が一番綺麗だったとき」という有名な詩がある。  
ぜひこの「自分の感受性くらい」の詩と資料を、国語の先生に読んでいただき、戦争も少し絡んでくるが、似たような詩に触れることができるせっかくのこのチャンスであり、そして良い資料が整っているので、ぜひ中学校の先生に取り組んで欲しいと感じたもの。

#### 10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年8月21日（水）午後1時から開催する。

#### 11 閉会宣言 午後3時00分

令和7年8月21日

署名委員

署名委員